

景気見通し調査

結果レポート

令和7年12月期

福井商工会議所 中小企業総合支援センター

【調査の概要】

当調査は、福井商工会議所管内の小規模事業所を中心とした短期的な景気動向を把握するため、毎年3月・6月・9月・12月の年4回実施している。

調査時期：令和7年11月25日(火)～12月2日(火)

調査方法：FAXによる送付・回収及びGoogleフォームによる回答

調査対象：福井商工会議所の会員 小規模事業所を中心に1,975件を抽出

(製造業・建設業・その他…従業員20人以下の事業所

卸売業・小売業・サービス業…従業員5人以下の事業所)

回答数：415件 (回答率21.0%)

従業員数	製造業	建設業	小売業	卸売業	サービス業	合計
5名以内	48	68	41	34	90	281(67.7%)
6～10名以内	19	14	5	8	20	66(15.9%)
11名以上	27	18	4	4	15	68(16.4%)
小計	94(22.7%)	100(24.1%)	50(12.0%)	46(11.1%)	125(30.1%)	415(100.0%)

D I 値とは…ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、景気動向を示す指標。「良い」「上昇した」とする企業割合から、「悪い」「下落した」とする企業割合を差し引いた値。「現在」 D I 値は3ヵ月前を基準とした現在の状況、「先行」 D I 値は今後3ヵ月後の状況を予測したもの。

【調査結果の概要】

景況感は3期連続改善もプラス幅は縮小。労働力不足への懸念も強く。

①業界の景況

全体として3期連続改善となつたが、改善幅は縮小。

④販売価格

建設業の下降傾向が顕著。
先行指標では製造業が改善の見通し。

②自社の景況

全体的に横ばいだが、現在・先行ともに製造業の変化幅はプラス。

⑤仕入価格

全体としては依然高止まりが続く。卸売業は大幅改善も再び悪化へ。

③売上高(受注高)

建設業が大幅改善。
しかし、先行D I値は全業種で悪化。

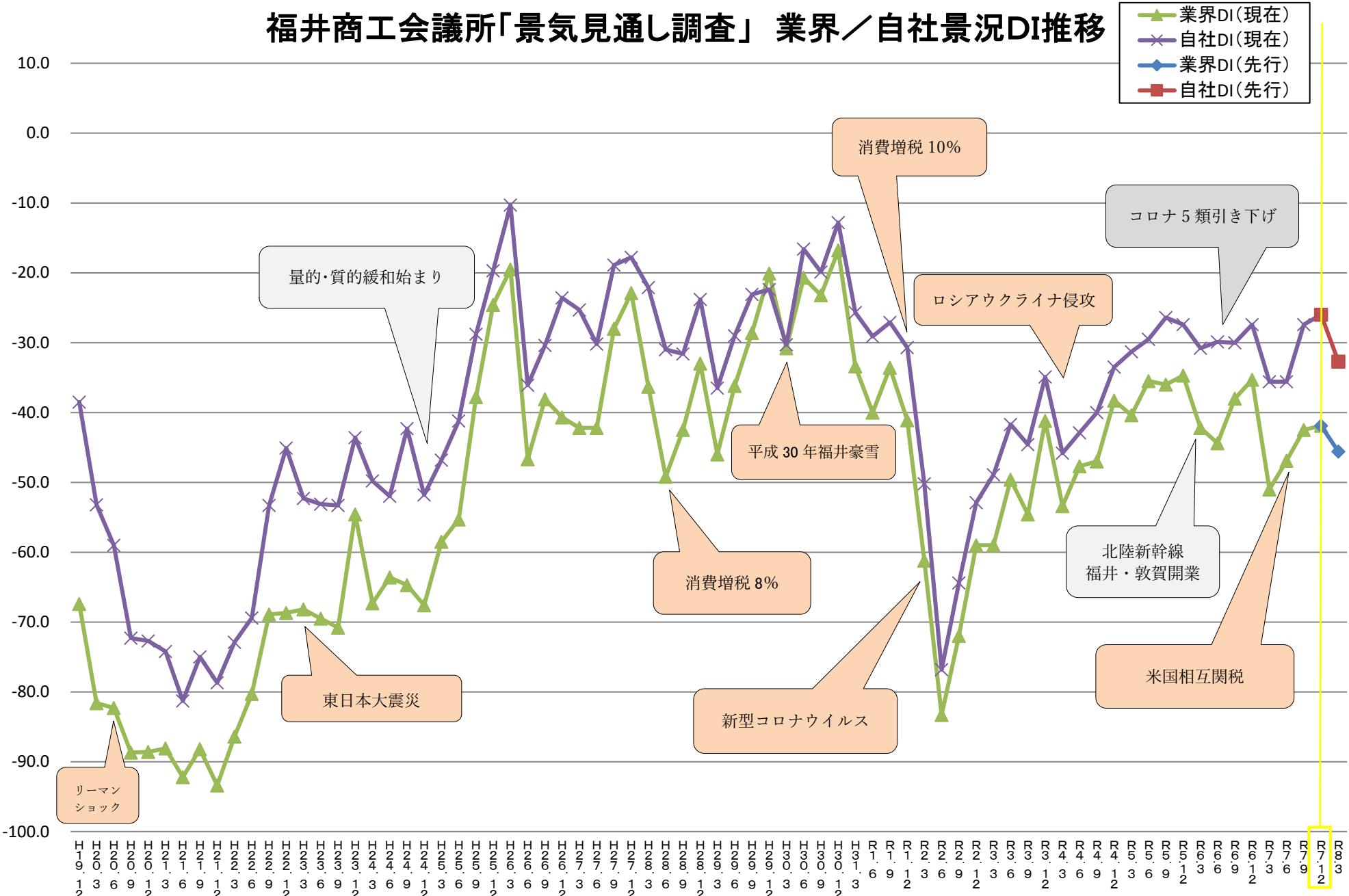
⑥採算(収支)

製造業の改善が目立つ一方、
卸・小売業は採算悪化。

業種	前回調査との比較					
	業界の景況	自社の景況	売上高	販売価格	仕入価格	採算
全業種	↑	↑	↑	↓	↑	↑
製造業	↑	↑	↑	↓	↑	↑
建設業	↓	↑	↑	↓	↑	↑
小売業	↑	↓	↓	↑	↓	↓
卸売業	↓	↓	↑	↓	↑	↓
サービス業	↓	↓	↑	↑	↓	↑

※青の矢印は前回調査から改善、赤の矢印は悪化を表している。

福井商工会議所「景気見通し調査」業界／自社景況DI推移

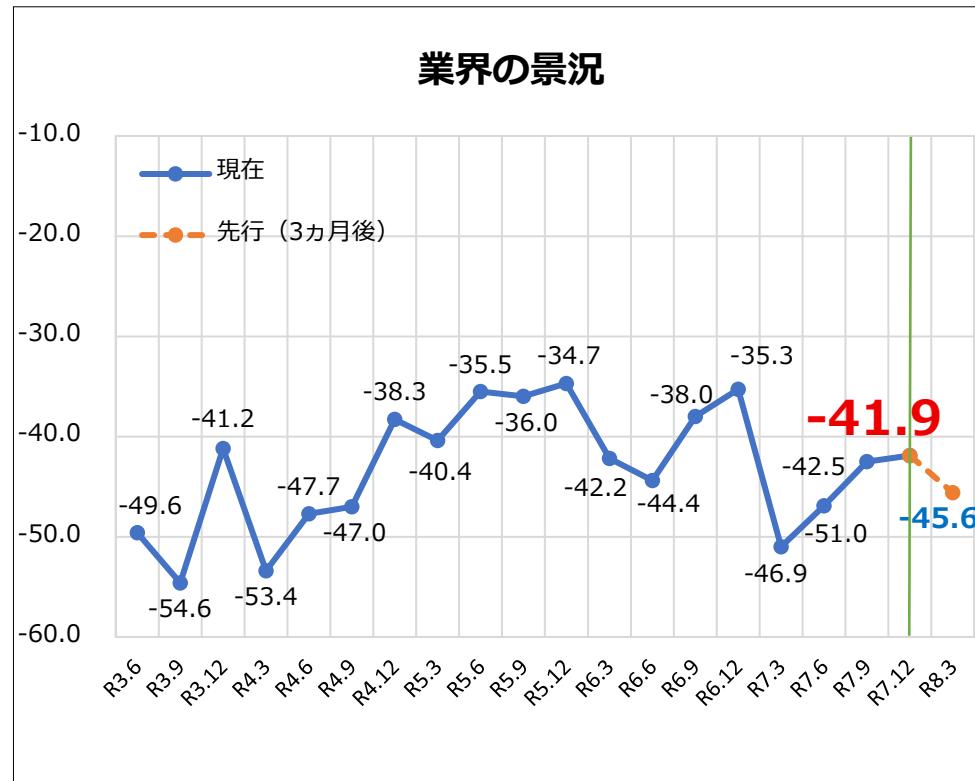


①一業界の景況

【全体として3期連続改善となったが、改善幅は縮小。】

全体の現在 DI 値は、▲41.9 (+0.6 ポイント) と3期連続で改善したが、改善幅は縮小した。一方、先行 DI 値は▲45.6 (-3.7 ポイント) と悪化の予測となった。

業種別にみると、現在 DI 値は小売業で+8.9 ポイントと大きく持ち直し、製造業でも+4.0 ポイントの改善が見られた。化粧品小売の事業者からは「夏場の猛暑による消費減退の状況から、通常期の状況まで回復した」との声が聞かれた。一方、飲食業では現在 DI 値で▲57.7 (-16.5 ポイント) と前回調査から大幅に下げ、焼肉店の事業所からは「物価高の影響が外食を控える動きにつながっていることが予想され、団体の予約が例年並みに達していない状況だ」という声も聞かれ、物価高騰が消費活動の抑制につながっている様子が窺えた。

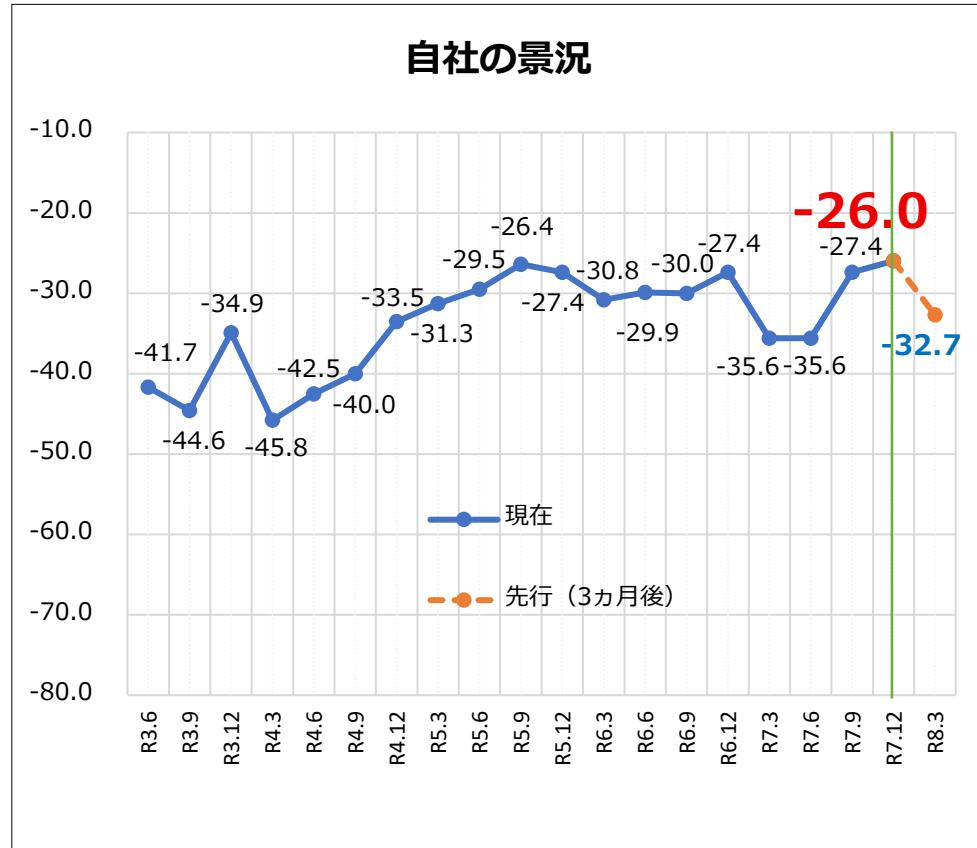


① 業界の景況	2025 年 10~12 月 (今期)		2026 年 1~3 月 (見通し)	
	現在 D I 値	変化幅 (R7. 12-R7. 9)	先行 D I 値	変化幅 (先行 D I - 現在 D I)
全業種	-41.9	0.6	-45.6	-3.7
製造業	-53.8	4.0	-49.5	4.3
建設業	-28.3	-4.7	-37.4	-9.1
小売業	-48.0	8.9	-55.1	-7.1
卸売業	-76.1	-6.5	-78.3	-2.2
サービス業	-28.8	-8.0	-33.3	-4.5
(うち飲食業)	-57.7	-16.5	-42.3	15.4

②一自社の景況一

【全体的に横ばいだが、現在・先行ともに製造業の変化幅はプラス。】

自社の景況は、現在 DI 値が▲26.0 (+1.4 ポイント) とわずかな改善に留まった。また、先行 DI 値は▲32.7 (-6.7 ポイント) と悪化の見通し。業種別では、現在 DI 値について製造業が▲31.2 (+7.7 ポイント)、建設業が▲8.1 (+2.0 ポイント) と改善。先行 DI 値では製造業が唯一プラスの傾向 (+3.2 ポイント) となった。一方で、卸売業の先行 DI 値の悪化が目立つ (▲73.9 (-23.9 ポイント))。



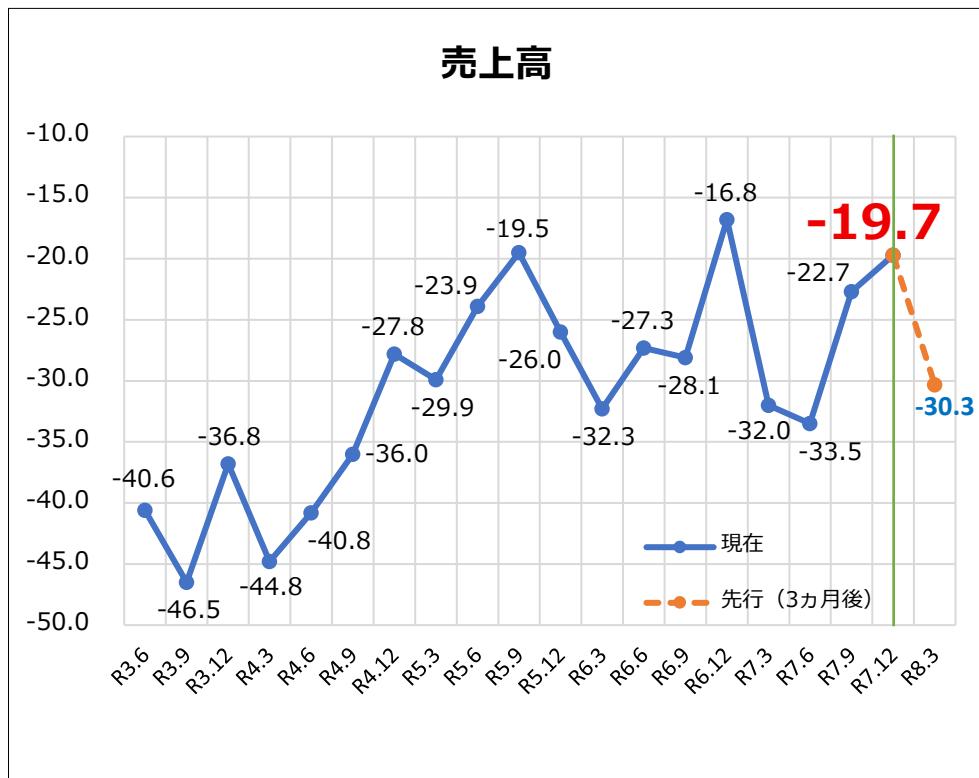
② 自社の景況	2025 年 10~12 月 (今期)		2026 年 1~3 月 (見通し)	
	現在 D I 値	変化幅 (R7.12-R7.9)	先行 D I 値	変化幅 (先行 D I - 現在 D I)
全業種	-26.0	1.4	-32.7	-6.7
製造業	-31.2	7.7	-28.0	3.2
建設業	-8.1	2.0	-17.3	-9.2
小売業	-44.9	-5.7	-49.0	-4.1
卸売業	-50.0	-5.1	-73.9	-23.9
サービス業	-19.2	-4.1	-26.6	-7.4

③一売上高（受注高）

【建設業が大幅改善。しかし、先行DI値は全業種で悪化。】

売上高（受注高）の現在DI値は、▲19.7 (+3.0ポイント)とわずかに改善した。一方、先行DI値は▲30.3 (-10.6ポイント)と見通しは厳しい結果となった。

業種別にみると、現在DI値は建設業で0.0 (+12.4ポイント)と大幅にポイントを上げた。解体工事の事業所からは「キャッシュレス化の進展によって、ATMの撤去工事が増加傾向にある」、住宅建築の事業所からは「受注件数の増加と積極的な価格転嫁によって、売上が増加している」と回答があった。一方で、先行DI値は卸売業で▲58.7 (-28.3ポイント)、建設業で▲15.3 (-15.3ポイント)と落ち込み幅が大きくなかった。繊維卸売業の事業所からは「消費者は生活必需品や日用品の値上げにより嗜好品に手を伸ばす余裕がなく、今後の売れ行きも鈍くなる可能性がある」との回答があった。

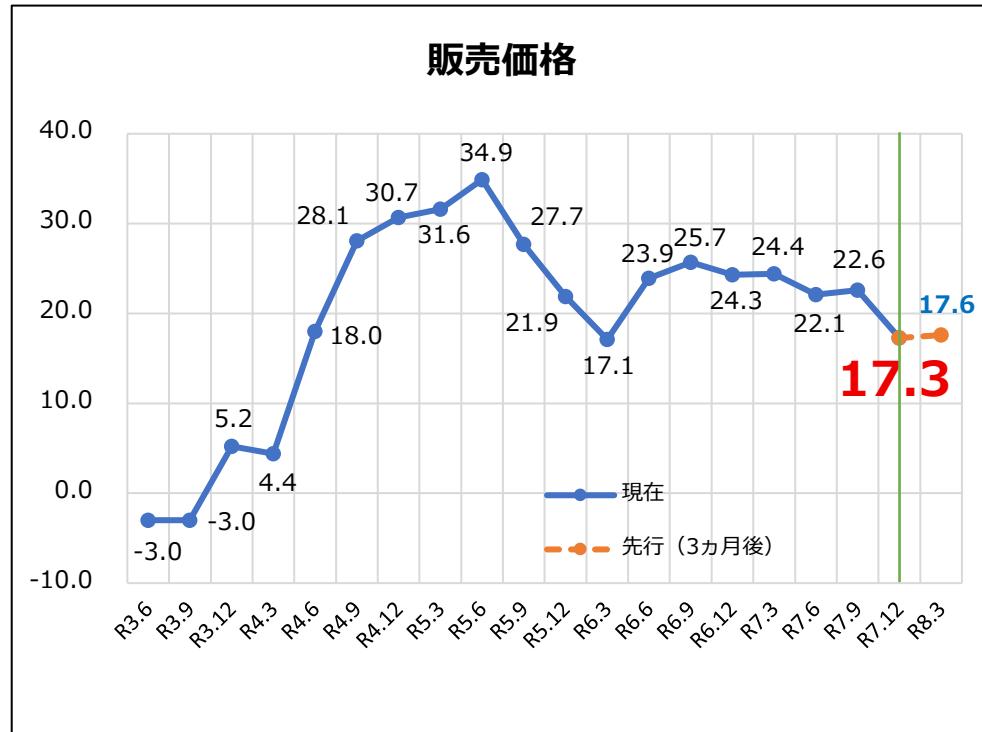


③ 売上高	2025年10~12月(今期)		2026年1~3月(見通し)	
	現在DI値	変化幅 (R7.12-R7.9)	先行DI値	変化幅 (先行DI - 現在DI)
全業種	-19.7	3.0	-30.3	-10.6
製造業	-29.0	4.3	-29.8	-0.8
建設業	0.0	12.4	-15.3	-15.3
小売業	-38.0	-6.6	-46.9	-8.9
卸売業	-30.4	4.4	-58.7	-28.3
サービス業	-17.1	-6.7	-25.4	-8.3

④一販売価格

【建設業の下降傾向が顕著。先行指標では製造業が改善の見通し。】

販売価格の現在 DI 値は、17.3 (-5.3 ポイント) と前回調査からポイントを下げた。また、先行 DI 値も 17.6 (+0.3 ポイント) と改善への期待は薄い。業種別にみると、建設業の現在 DI 値が 13.1 (-11.6 ポイント) と大幅に下降したほか、卸売業で 23.9 (-8.0 ポイント) 、製造業で 11.8 (-7.1 ポイント) とポイントを下げた。また、先行 DI 値は製造業が 18.3 (+6.5 ポイント) と改善する見通しであり、それ以外の業種では現状維持の傾向となつた。医療商材卸売業の事業者からは「類似製品を扱う同業他社が販売先との取引を継続してもらうため値下げに踏み切っている。競争が激化しており、当社も追随して価格を下げる得ない」との声が聞かれ、引き続き動向を注視していく必要がある。



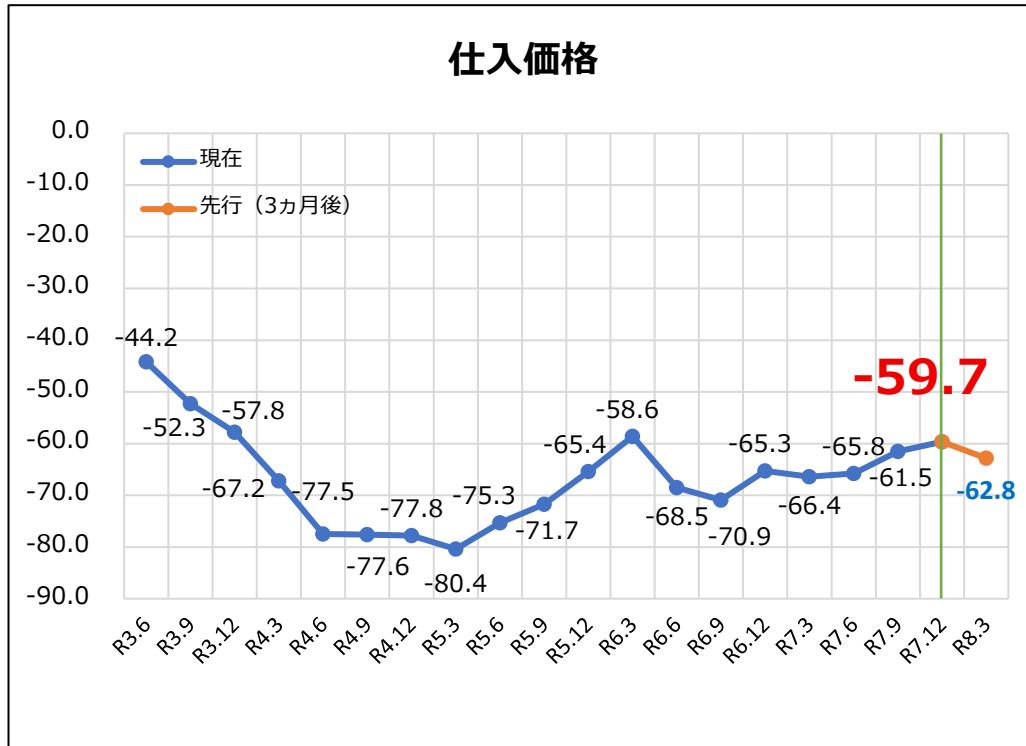
④販売価格	2025年10~12月(今期)		2026年1~3月(見通し)	
	現在DI値	変化幅 (R7.12-R7.9)	先行DI値	変化幅 (先行DI-現在DI)
全業種	17.3	-5.3	17.6	0.3
製造業	11.8	-7.1	18.3	6.5
建設業	13.1	-11.6	13.3	0.2
小売業	26.0	2.0	26.0	0.0
卸売業	23.9	-8.0	23.9	0.0
サービス業	18.7	1.4	14.8	-3.9

⑤一仕入価格

【全体としては依然高止まりが続く。卸売業は大幅改善も再び悪化へ。】

仕入価格の現在 DI 値は、▲59.7 (+1.8 ポイント) と 2 期連続で改善（仕入価格が下落）した。一方、先行 DI 値は▲62.8 (-3.1 ポイント) とわずかに悪化する予測で、今後も仕入価格の高止まりは続く見通し。

業種別にみると、現在 DI 値は卸売業で▲54.3 (+16.7 ポイント) と大幅に改善した一方、先行 DI 値は▲67.4 (-13.1 ポイント) と再び悪化の傾向を示した。酒類を輸入する卸売業者からは「今後も輸送費の高騰に加え、円安の継続などによって仕入価格の高騰が危惧される」との声も聞かれた。



⑤仕入価格	2025 年 10~12 月（今期）		2026 年 1~3 月（見通し）	
	現在 D I 値	変化幅 (R7. 12-R7. 9)	先行 D I 値	変化幅 (先行 D I - 現在 D I)
全業種	-59.7	1.8	-62.8	-3.1
製造業	-59.1	3.1	-66.0	-6.9
建設業	-57.6	2.0	-57.1	0.5
小売業	-68.0	-3.3	-72.0	-4.0
卸売業	-54.3	16.7	-67.4	-13.1
サービス業	-60.3	-5.5	-59.5	0.8

※仕入価格の DI 値は上昇すると仕入価格が減少（改善）、下降すると仕入価格が増加（悪化）していることを意味する。

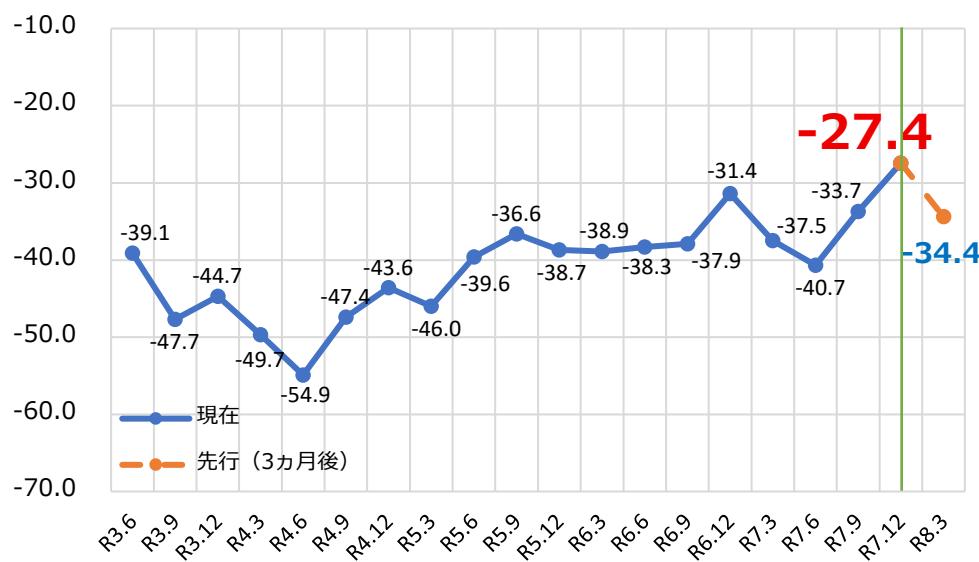
⑥一採算（収支）

【製造業の改善が目立つ一方、卸・小売業は採算悪化。】

採算（収支）状況を表す現在DI値は、▲27.4 (+6.3ポイント)と2期連続で改善した。一方、先行DI値は全業種で変化幅がマイナスとなった。

業種別にみると、現在DI値は製造業で▲28.7 (+15.7ポイント)と大幅に改善した。一方、卸・小売業では悪化しており、特に小売業のマイナス幅が大きい(▲42.0 (-14.5ポイント))。自動車販売の事業者からは「新車の納期遅延により中古車の買取価格が高騰しているが、安価に販売している大手中古車販売サイトと比較されてしまうため、価格転嫁が難しくなってきており」との声も聞かれた。

採算（収支）



⑥採算	2025年10~12月（今期）		2026年1~3月（見通し）	
	現在DI値	変化幅 (R7.12-R7.9)	先行DI値	変化幅 (先行DI - 現在DI)
全業種	-27.4	6.3	-34.4	-7.0
製造業	-28.7	15.7	-33.7	-5.0
建設業	-12.1	8.4	-22.2	-10.1
小売業	-42.0	-14.5	-54.0	-12.0
卸売業	-50.0	-5.1	-56.5	-6.5
サービス業	-24.4	6.7	-28.5	-4.1

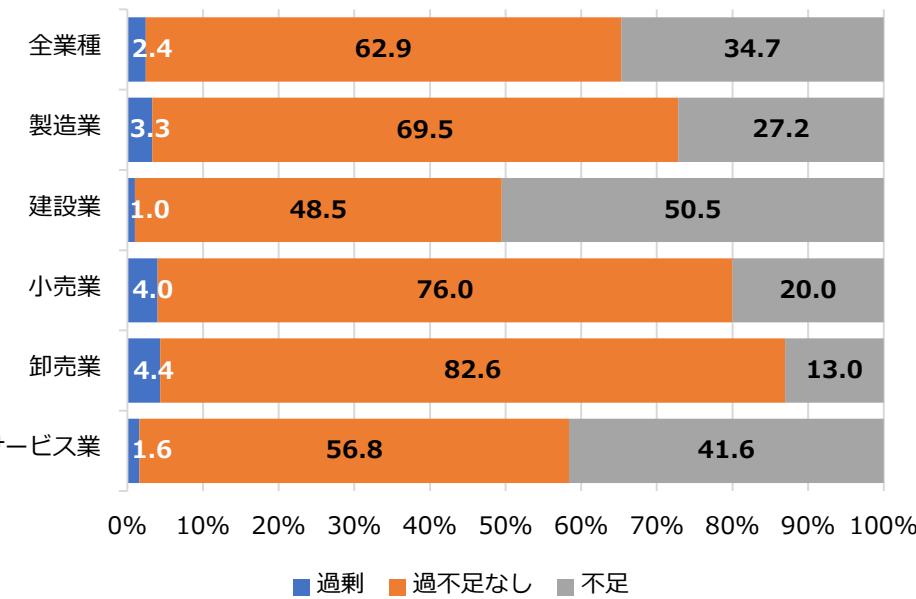
⑦一労働力一

【2期連続で「不足」が増加、今後の懸念も強く。】

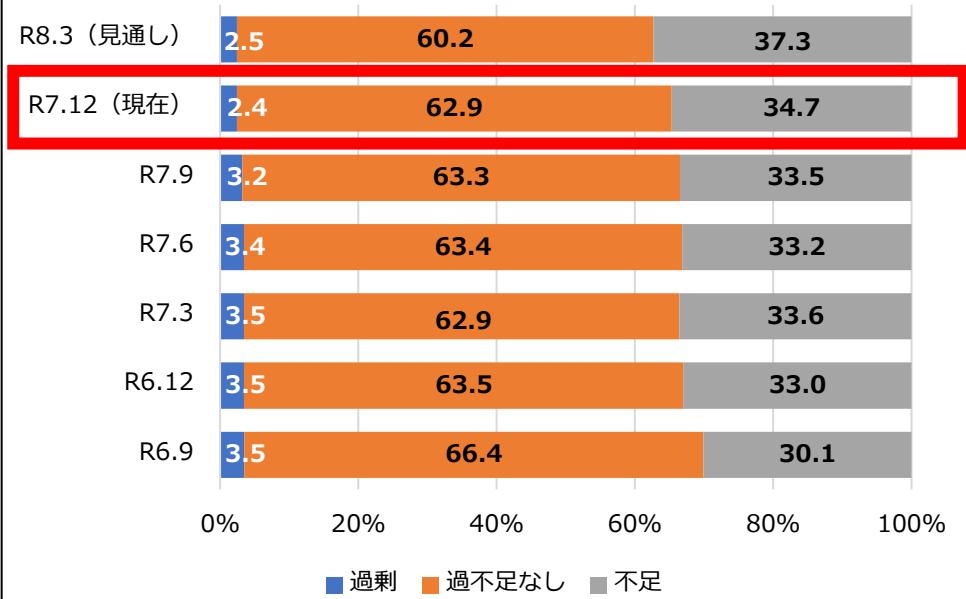
労働力については、「不足」が34.7% (+1.2ポイント)と2期連続で増加となった。また、3ヶ月後も37.3% (+2.6ポイント)と不足感が一層強まる見通しとなった。

業種別にみると、建設業で「不足」が50.5%（前回51.7%）、サービス業で「不足」が41.6%（前回42.9%）と不足感は若干弱まったが、依然として人手不足の状況は継続している結果となった。清掃サービス業の事業所からは「取引先から新たな仕事を依頼したいと言われているが、人手を確保できていないため、受注を断念せざるを得ない状況だ」と、人手不足が機会損失の原因となっていることもわかった。

労働力の過不足感



労働力の過不足感 推移（全業種、R6.9月調査～）

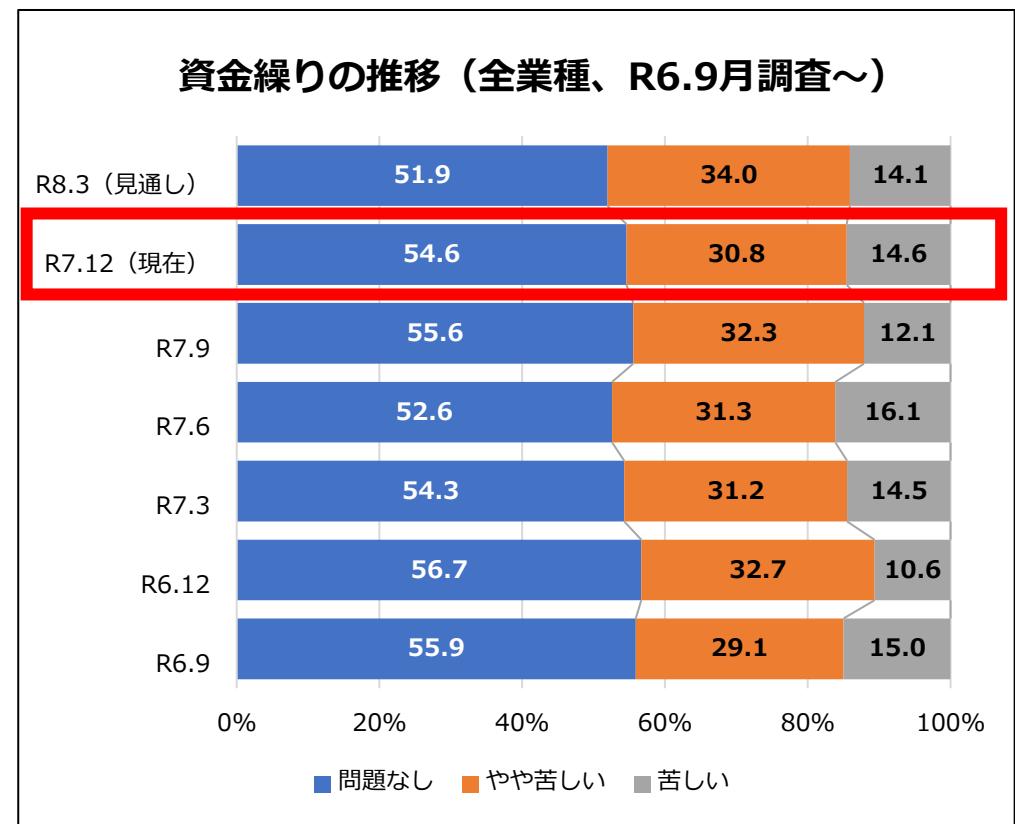
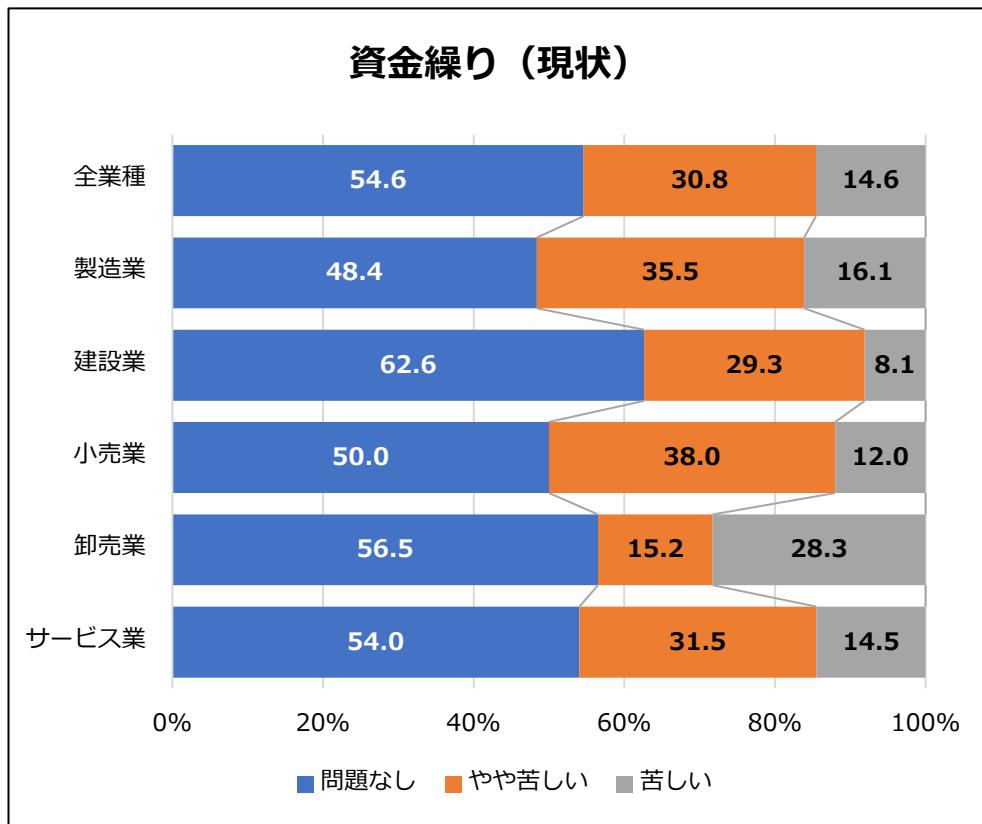


⑧一資金繩り一

【「苦しい」の回答割合が微増。人件費と仕入価格の高騰が要因の声も。】

現在の資金繩りの状況は「問題なし」が54.6%と14期連続で半数を超えた。一方、「苦しい」は14.6% (+2.5ポイント)と2期ぶりに悪化したほか、3ヶ月後の見通しは「やや苦しい」「苦しい」が合計で48.1% (+2.7ポイント)と、令和4年9月期(49.2%)に次いで割合が高くなる予測である。

業種別にみると、サービス業に含まれる飲食業で資金繩りが「苦しい」とする事業所の割合が38.5%を占め、前回から26.7%増加した。居酒屋を経営する事業者からは「今年10月の最低賃金引き上げをはじめとする人件費負担の増加、加えて仕入価格の高騰が大きなダメージとなっている。価格転嫁できずに費用だけがかさんでいくことで資金繩りが悪化している」との声が聞かれ、価格転嫁の難しさが資金繩りにも影響を及ぼしている。

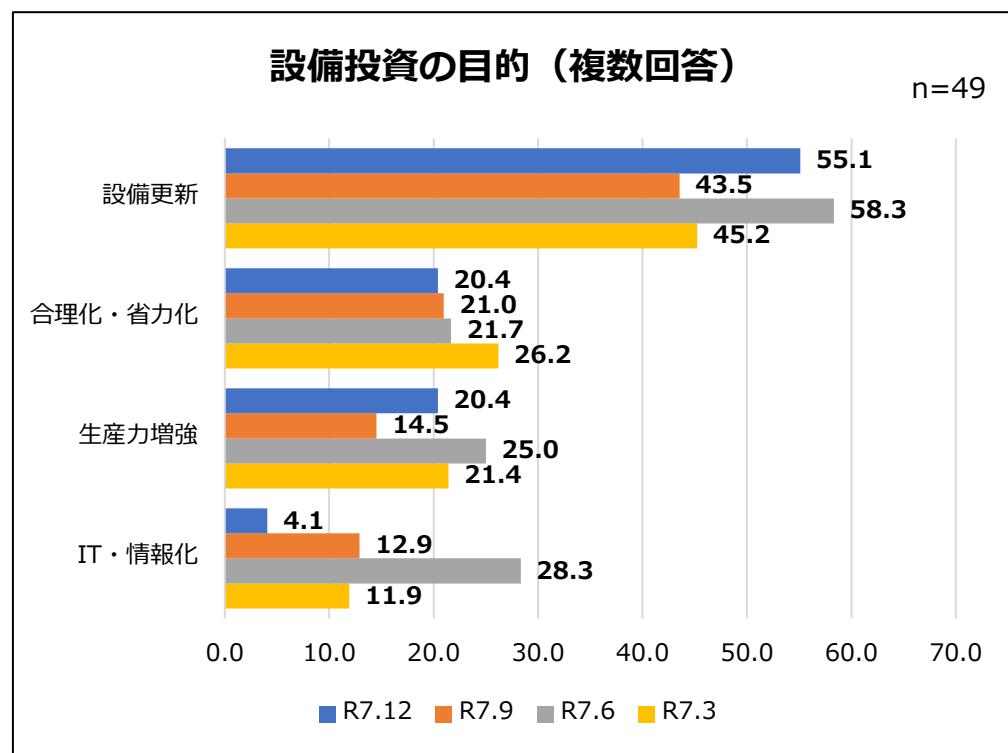
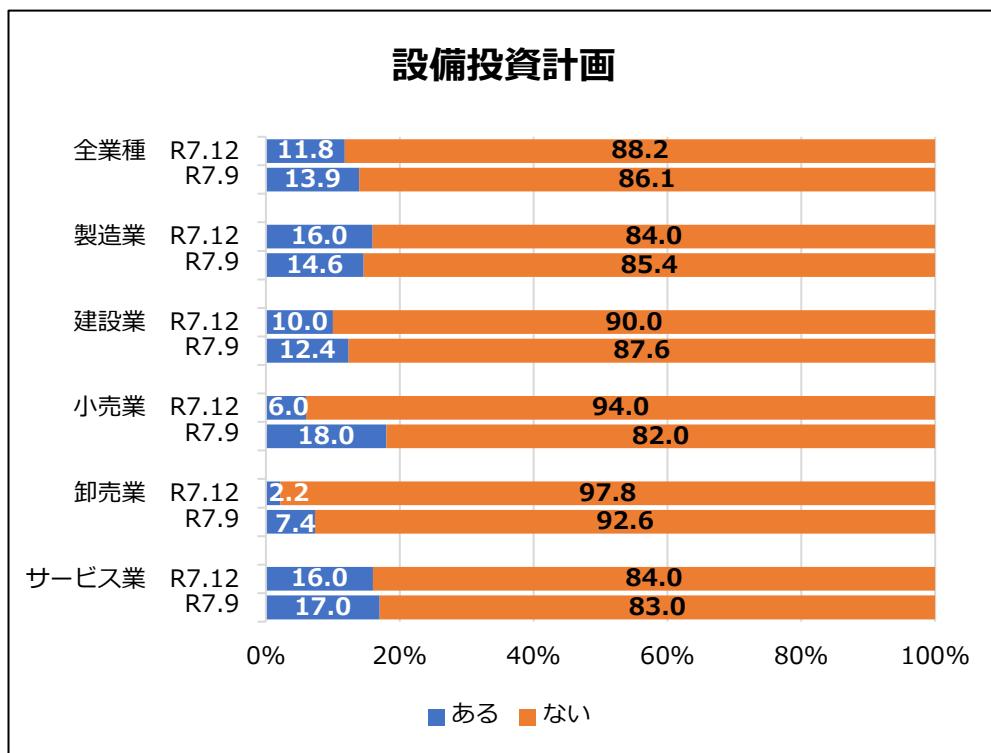


⑨一設備投資一

【小売業で設備投資意欲が大幅に減少。全体として成長投資も鈍化。】

今後3か月以内の設備投資計画は、「投資計画あり」が11.8%(-2.1ポイント)、「投資計画なし」は88.2%(+2.1ポイント)となり、前回調査と比較し設備投資の動きがわずかに弱まる見通しとなった。

業種別にみると、小売業は「投資計画あり」が6.0%(-12.0ポイント)と大幅に減少した。なお、「投資計画あり」と回答した事業所の投資内容では、「設備更新」が55.1%(+11.6ポイント)と最も多く、次に「合理化・省力化」で20.4%(-0.6ポイント)、「生産力増強」20.4%(+5.9ポイント)で並び、「IT・情報化」は4.1%(-8.8ポイント)と大幅に減少した。なお、「合理化・省力化」「生産力増強」「IT・情報化」の合計は44.9%(-3.5ポイント)と、成長投資の割合は減少した。

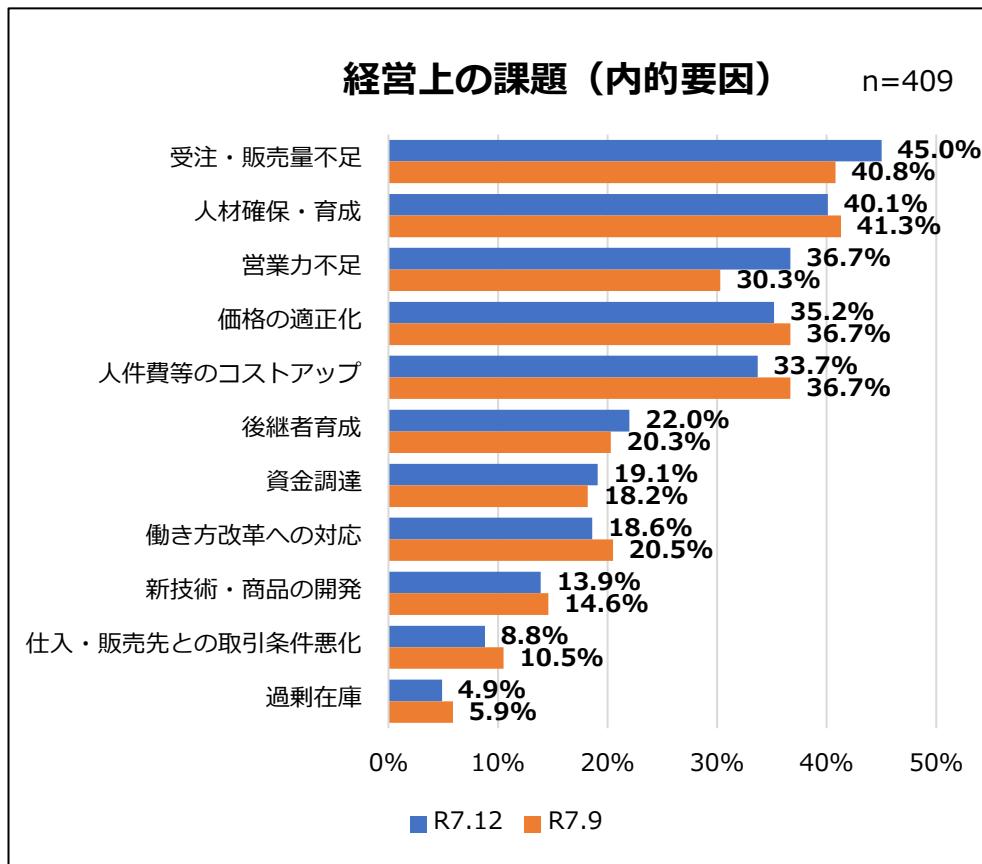


⑩一経営課題（内的要因）一

【2期ぶりに「受注・販売量不足」が最多】

内的要因における経営上の課題は、「受注・販売量不足」を挙げる回答が45.0%と2期ぶりに最多となった。次いで「人材確保・育成」が40.1%、「営業力不足」が36.7%と続いた。

業種別にみると、「人材確保・育成」は建設業で62.9%(+1.3ポイント)で課題として最も多く挙げられた。また、「受注・販売量不足」は卸売業で76.1%(+14.0ポイント)、次いで小売業で68.0%(+14.0ポイント)と最多で、業種間で差がみられた。



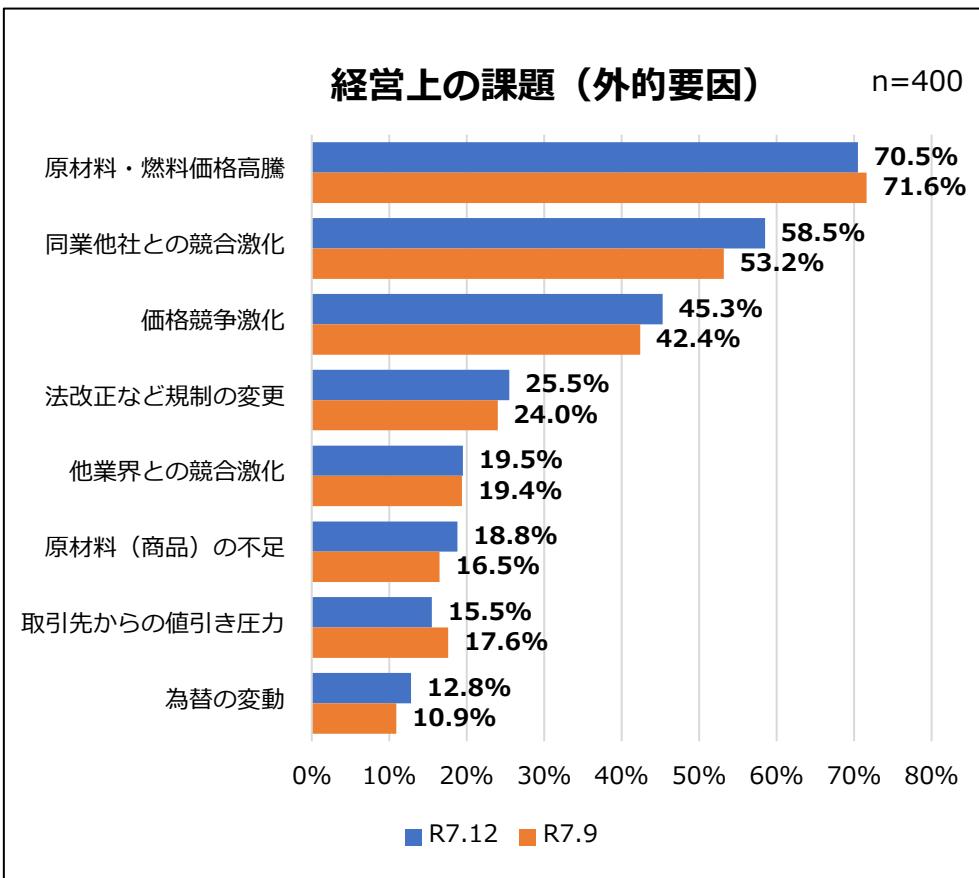
		受注・販売量不足	人材確保・育成	営業力不足	価格の適正化
業種別経営課題 （内的要因） 【複数回答】	全業種	R7.12 45.0%	R7.9 40.8%	R7.12 40.1%	R7.9 36.7%
	製造業	R7.12 48.9%	R7.9 52.3%	R7.12 31.9%	R7.9 36.7%
建設業	R7.12 32.0%	R7.9 24.4%	R7.12 62.9%	R7.9 39.4%	R7.9 38.3%
	R7.12 24.4%	R7.9 33.0%	R7.12 61.6%	R7.9 39.8%	R7.9 31.8%
小売業	R7.12 68.0%	R7.9 54.0%	R7.12 20.0%	R7.9 38.0%	R7.9 28.0%
	R7.12 20.0%	R7.9 22.0%	R7.12 61.6%	R7.9 37.2%	R7.9 37.2%
卸売業	R7.12 76.1%	R7.9 62.1%	R7.12 10.9%	R7.9 39.1%	R7.9 41.3%
	R7.12 10.9%	R7.9 19.7%	R7.12 61.6%	R7.9 40.9%	R7.9 40.9%
サービス業	R7.12 31.1%	R7.9 24.0%	R7.12 47.5%	R7.9 38.5%	R7.9 34.4%
	R7.12 47.5%	R7.9 55.0%	R7.12 38.5%	R7.9 38.0%	R7.9 56.3%

⑪一経営課題（外的要因）一

【「原材料・燃料価格高騰」が17期連続で最多】

外的要因における経営上の課題は、「原材料・燃料価格高騰」が70.5%(-1.1ポイント)と17期連続で最多となり、次いで「同業他社との競合激化」が58.5%(+5.3ポイント)、「価格競争激化」が45.3%(+2.9ポイント)と続いた。

業種別にみると、小売業では「価格競争激化」が64.6%(+15.6ポイント)、卸売業では「同業他社との競合激化」が65.9%(+11.2ポイント)と最多で、文具・事務用品卸売業の事業所からは「当社は同業他社と比較して規模が小さい。したがって、相見積や入札となった場合に適正な利幅を確保するための価格を提示しても、資本力のある事業者に負けてしまう」という声があった。



		原材料・燃料価格高騰	同業他社との競合激化	価格競争激化	法改正など規制の変更
業種別経営課題 （外的要因） 【複数回答】	全業種	R7.12 R7.9	70.5% 71.6%	58.5% 53.2%	45.3% 42.4%
	製造業	R7.12 R7.9	84.8% 86.0%	53.3% 47.7%	44.6% 33.7%
建設業	R7.12 R7.9	77.3% 76.7%	62.9% 47.7%	40.2% 45.0%	33.0% 39.5%
	小売業	R7.12 R7.9	58.3% 46.9%	54.2% 59.2%	64.6% 49.0%
卸売業	R7.12 R7.9	54.5% 68.8%	65.9% 54.7%	45.5% 39.1%	11.4% 12.5%
	サービス業	R7.9 R7.9	57.4% 68.6%	61.7% 56.9%	43.6% 45.1%

参考：回答者の声

- 台湾に木材を輸出しているが、円安を追い風に売上が増加傾向にある。(木材卸売) ↗
- スポーツ用品を製造する専用機械を生産している。生産計画は2年先まで決まっている一方で、受注増加による人手不足によりパートを随時募集している状況。(機械製造) ↗
- 同業他社の事業撤退などにより受注が増加傾向にある。(繊維製造) ↗
- 大規模工場の建設工事に携わっており、大手ゼネコン・地元ゼネコンからの安定した受注がある。(総合工事) ↗
- メーカー側で作業服の生産が遅れたこともあり、夏場は欠品が続き機会損失が生じていたが、ようやく供給が正常に戻りつつあり売上も回復している。(作業用品小売) ↗
- 夏場の猛暑による消費減退や外出抑制によるものとみられる売上減少があったものの、現在は前年同時期と同程度に回復した。(化粧品小売) ↗
- 金の需要が高まっており買取価格が上昇していることから、業績は好調である。(宝飾品小売) ↗
- 中国経済の回復が見込めないなか、日中関係の冷え込みもあり業績は下降気味である。また、韓国へも輸出しているが、想定するほど経済が回復していないため見通しは苦しい。(繊維卸売) ↘
- アフリカ豚熱が発生した影響で、従来から使用しているスペイン産の豚肉が入荷できなくなった。現在は、安価なブラジル産の豚肉で代替しており利益率は一時的に向上しているが、今後は豚肉の供給と需要のバランスが崩れることによる価格高騰が危惧されるため、今後の動きを注視していく必要がある。(飲食) ↘
- 暖冬傾向にあり冬物商品の売れ行きが鈍い。また、大雪による交通障害などで外出がままならないこともあるため、1月から2月までにかけての来店者数減少を危惧している。(靴小売業) ↘
- ブラックフライデーが原因で発生した運送量過多により、発送の遅延が発生し経営に支障をきたした。また、原材料の酒米も高騰が続いている。(清酒製造) ↘
- 売上は伸びているが、クレジットカード決済者の割合も増えているため入金が遅れ、資金繰りに支障をきたしている。(飲食) ↘